

600名を超える聴講者に深い感銘を与えた。終つて三ヶ島大会副実行委員長から閉会の挨拶があり、最後に両講師に参会者一同感謝の拍手を送つて特別講演会を閉じた。

講演

造船業界の将来の展望と鉄鋼材料に対する要望

三菱重工業(株)長崎造船所

副所長 秋 友 素 身氏

建築における新構造の発展

東京大学教授、日本建築学会副会長

坪 井 善 勝氏

なお、講演内容は鉄と鋼第52年第1号に掲載の予定。

見学会

第70回講演大会の最後の行事である見学会は、好天気に恵まれた10月16日(土)に行なわれた。

見学会はダイナミックな躍進を続ける北九州工業地帯と、異国的な情緒を持つ造船の街長崎と4班に別れ150名が参加した。見学内容は別掲の見学記をご覧願うこととして、われわれのために工場見学をご許可下さった関係各社に改めて謝意を表します。

なお見学班中D班、E班は都合により見学は取止めとなった。

見学工場次の通り

A班 八幡製鉄(株)八幡製鉄所、黒崎窯業(株)、
(株)安川電機製作所

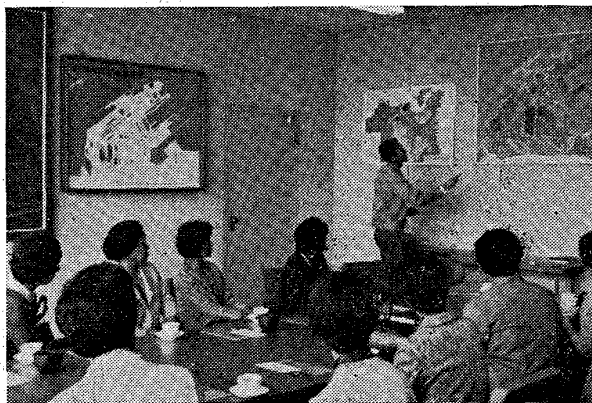
B班 八幡化学工業(株)戸畑製造所、八幡製鉄(株)工作本部、八幡製鉄(株)戸畑製造所、八幡エコン
スチール(株)戸畑工場

C班 日本磁力選鉱(株)牧山工場、住友金属工業(株)小倉製鉄所、東京製綱(株)小倉工場、東洋陶器
(株)

F班 三菱製鋼(株)長崎製鋼所、三菱重工業(株)長崎造船所

婦人見学会

大会に参加した会員夫人のために10月14日(木)北九州市内観光を織込んだ工場見学会を行なった。見学先は八幡製鉄(株)戸畑製造所、東洋陶器(株)と高塔山、若戸大橋、河内貯水池、早鞆の瀬戸で小人数ながら予定時間を数時間超過する熱心さであつた。詳細は別掲見学記を参照のこと。



婦人見学班



懇親会場風景

懇親会

大会第1日目の10月13日(水)、17時30分から150余名の参会を得て小倉ステーションホテル5階大ホールで開催された。講演会場の九州工業大学から懇親会場まで参会者のためにバス2台を仕立て、途中、実行委員会のおはからいで、開会までの時間を利用して若戸大橋を中心に八幡、戸畑、小倉と北九州市内を遊覧し会場に向つた。

懇親会は和田大会実行委員長の挨拶で始まり、湯川会長の挨拶ののち、来賓として出席の九州工業大学妻木貞一学長から「鉄鋼協会のような大学の講演大会が九州工業大学で開かれることは、学内はもとより、その関係方面に大きな刺激を与え、影響力は大なるものと信ずる。大会の成切を祈る」との挨拶があつた。続いて参会者の最長老である三島本会前会長の音頭で全員乾杯を交わし開宴した。

会場は湯川会長夫人、三島前会長夫人をはじめ会員夫人10名余が参加し、なごやかな雰囲気の中に、一段とはなやかさを増し、八幡製鉄社員有志の編成するハワイアンバンドの奏なでる軽快なリズムをバックに楽しく交歓の一時を過した。最後に嘉村平八九州工業大学前学長の発声で万才を三唱19時30分すぎ名残りを惜しみながら散会した。

見学記

A 班

八幡製鉄(株)八幡製造所

9時最初の見学先である八幡製鉄所の技術研究所講堂に集合した一行は32名であつた。まず石原技術部長から会社概況のご説明があつた。製鉄の町八幡を一望に見下ろす研究所からの八幡地区工場130万坪の広大な全ぼうは正に雄大の一言に尽きる。工場へ原料を運ぶ大型船の姿も遠くてケシ粒のように小さく見えた。排煙のかなたに見えかくれするので、高炉の位置さえも注視しなければ見過ごしてしまいそうであつた。説明後、直ちにバスで八幡地区洞岡工場へ向かつた。

八幡地区には8基の高炉、20基の平炉、3基の転炉、2基の電気炉があり、ほかに延約50万t/月の能力を有する分塊、圧延設備を有しているとのことである。